

熊本地震学校日記 vol.6

5月2日(月) 台湾との交流

日本在住の台湾佛教慈濟慈善事業基金會日本分會の方が大津町にボランティアに来られていました。スポ森の体育館で炊き出しなどをされていたそうです。その方々が少しでも美咲野小で子どもたちの力になりたい元気づけたいと(台湾のTV局の方も同伴で)美咲野小に来られました。諸事情があつて到着は子どもたちが下校の準備を始めたところでしたので、慌てだしかつたのですが、スクールバス利用の子どもたちだけが少し時間があつたのでちょっとだけ交流の時間をもつことができました。台湾の歌を手話を交えて教えていただきました。「感謝」と書いて「カムチャー」と読み「天に感謝 大地に感謝 お母さん お父さんに感謝 すべてのものに感謝」という意味の歌でした。



カムチャー
感謝

5月6日(金) 佐藤敏郎先生(東日本大震災時、女川一中教諭)の講話

佐藤敏郎先生は、東日本大震災のとき、当時石巻市立大川小学校6年生だったお嬢さんを亡くされています。今回、縁あつて美咲野小に来ていただき職員が話を聞くことができました。



- 想像力が必要**
- 学校システムの復旧
 - 子どもの心のケア
 - 授業の遅れをどう取り戻すか
 - 見える化する
 - 時間と共に解決すること
 - 学校ならではの
 - 非日常とどう向き合うか
 - 信頼と習慣の大切さ

要点は左の通りです。東日本大震災の時も ERATH (兵庫県の震災学校支援チーム Vol.3 を見て下さい)の方が東北に来られたそうです。そして EARTHの方が言われたとおりの経過をたどったとのこと。子どもたちの心のケアでは、いろんな表現をさせて「私と同じだ」「こんな風に思っているんだ」「どんな気持ちも大切にしよう」と思えることが大切である。人それぞれ受け止め方は違う。何もない日常だって受け止め方は違う。想像力をはたらかせることがとても大切。大人の大変さを感じ、子どもはたくさん我慢して数年たつて自分の辛さをやっと言葉にできた子どももいる。

「想像力」
TVでもやっていますよね。
どんな気持ちかなあ 雨になったら空を飛べたら ウサギになったら いじわるされたら 想像してみよう

避難訓練は完璧を目指さず失敗してそして課題が見えてそれを共有して実際に災害があつたときに生かすことが大切である。美咲野小でも「避難訓練」という言葉はあえて使わず、保護者引き渡しのための一斉下校の並び方の練習などの呼び方に変えて、兄弟姉妹が揃う練習をしています。



「連絡がつけば、安全が確認されれば、保護者に引き渡す」ことが基本であるが、何かがあつたときに連絡を取り合うのではなく、何も無いときにたくさんのコミュニケーションをとっておくべきであるとのことでした。なるほどと思いました。「信頼と習慣」が人間の最大の武器だとも言われました。「子どもも大人も、学校の職員も保護者の皆さんも地域の皆さんも『言われなくても分かる』状況をつくっていくことが大切だと思いました。これを元に5月9日の学校再開の日からまずは子どもたちに並び方や兄弟姉妹の集合の仕方を練習させました。大きな地震の時は(大雨等の災害も)安全が確認されるまで、学校に留め置き、保護者の皆さんに迎えに来てもらう。「引き渡すときはこのようにする」というルールもつくっていかなくてはなりません。まずは6月11日土曜授業を実施し保護者引き渡しの訓練をする予定です。大規模校だからできないではなく、大規模校でもできなくてはなりません。そのためには保護者の皆さんのご理解とご協力が必須です。これまでは、「教室で授業中に予告をして」の避難訓練を当然のように行っていました。しかし、休み時間や登下校中に地震がおこった時も想定して、自分で考えて行動できるようにすること、静かに移動し集合すること、静かに話を聞くことなども指導していきます。ご家庭でももしもの時のことについて話をさせていただきたいと思います。



また、佐藤先生からは、「16歳の語り部」「女川一中の句 あの日から」の本を寄贈していただきました。その他にも多くの資料をいただきました。いつか保護者の皆さんがお話を聞ける機会を作れたらと考えています。

6月11日(土)
8:55~9:40 役員決め
9:50~10:35 授業参観
10:45~11:20 学級懇談 (子どもたちは体育館で集会)
11:50~ 保護者引き渡し訓練

第6条
自分の命 みんなの命 どれもが世界で1つだけ
~くまもと家庭教育10か条より~

美咲野小だより

5月

NO.7
H28. 5. 11
大津町立
美咲野小学校
文責：草場ルミ子

美咲野小の

美咲野小に来て約一ヶ月 いろんな縁を感じます。五月二十日に予定されていた台湾の光栄小との交流は震災の関係で、縮小して六月に延期になりましたが、大津町にボランティアに来られていた日本在住の台湾の方が、光栄小との交流のことを聞かれ是非美咲野小へとのことで五月二日においでになりました。またいくつかのつながりが縁で宮城県石巻市の佐藤敏郎先生に美咲野小学校に来ていただくことができました。五月六日には、佐藤敏郎先生をはじめ、保健科学大学の田尻明子先生、岩手県大槌町「子ども夢ハウスおおつち」の吉山周作さん、九州看護大学の学生の西島遥さんもおいでになりました。また、山口市の「夢のみずうみ村」の岡田雄三さん、岩手県大槌町「子ども夢ハウスおおつち」の三浦和子さんから美咲野小に義援金をいただきました。震災に関係する絵本等を購入したいと思えます。感謝です。